

【所属名：市民部環境生活課環境係】

## 会 議 録

件名	令和元年度 第2回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会				
日	令和元年 11月 5日(火)	時間	13時30分から 15時30分まで	場所	市役所 201・202 会議室
出席者	・委員名【出席】 荒木委員、武田委員、中山委員、福崎委員、小野委員、久保田委員、齋藤伸一委員、小野垣委員、中澤委員、斎藤富貴子委員、園田委員、青木委員、葉茸委員 【欠席】 大月委員、山本委員、石井委員、松澤委員				
	・事務局【環境生活課】 高野課長、小竹係長、横澤主査 【ガス水道局】 谷口次長、丸山主査、田中主任主事				
	傍聴者定員		—	傍聴者数	0

### 会議要旨

- (1) 開 会 (進行：小竹係長)
- (2) あいさつ (高野環境生活課長)
- ・審議会委員について 欠員 松木委員
- (3) 議事
- ① 糸魚川市のごみ排出量の予測と目標 (案) について 資料 No. 1
- ② 糸魚川市の生活排水の予測と目標 (案) について 資料 No. 2
- ③ 高校生アンケート結果について 資料 No. 3
- ④ 基本理念、基本方針、施策の検討について 資料 No. 4
- ⑤ 第2次一般廃棄物処理基本計画 (案) について 資料 No. 5
- 資料No. 1 から資料No. 5 に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

裏面へ

①糸魚川市のごみ排出量の予測と目標（案）について

資料 No. 1

②糸魚川市の生活排水の予測と目標（案）について

資料 No. 2

<主な質疑・意見>

事務局) 今回提出する資料No.1, 2は、前回の審議会時の提出資料、糸魚川市のごみ排出量の予測と目標（案）について、糸魚川市の生活排水の予測と目標（案）についてを、わかりやすく整理した資料である。

委員) 事業系のごみは個人が出すのではないため、削減量 28g の記述は不要ではないか。

事務局) ごみ全体の目標値 911g を出すために必要な数字であるために、今回の資料に記述した。

委員) P9 の紙類の資源化については、分別するだけではごみの減量にはならないのではないか。

事務局) こちらは、「家庭系ごみの資源を除く量」の削減対策になる。ごみの総量は減少しないが、可燃ごみに含まれる、新聞紙やダイレクトメールを分別することにより、ごみとして排出してしまっている紙類を資源に回すよう、市民に周知徹底をしていきたい。

③高校生アンケート結果について

資料 No. 3

④基本理念、基本方針、施策の検討について

資料 No. 4

<主な質疑・意見>

事務局) 資料No. 3 のアンケートについて、前回の市民アンケートの内容に基づき、高校生に対するアンケートを行った。

資料No. 4 の基本理念、基本方針、施策の検討については、前回のワークショップを取りまとめたものを添付している。欄内に意見を記入していただきたい。

委員) 過去 10 年間に、ごみに関する施策を行った結果や効果を検証しないまま、次期施策を考えるのは難しい。

事務局) 10 年間の今までの取り組みについて総括したいと思う。また、前計画の目標に達していないので、新たな目標を設定し、更なる努力をしたい。新たな施策に対してアイデアがあればこの時間に出していただき、次回の審議会までに取りまとめたい。

委員) ごみは減少していない。以前ごみ有料化の答申を出したが、実施されなかった。今後どのように取り組むか、次回までに提出していただきたい。近隣では効果が出ているところがあるようだ。何もベースがでないような状況では、新たな施策に関して意見は出しにくい。また、第 2 次一般廃棄物処理基本計画（たたき台）資料 No. 5 の説明を先にすべきだと思った。

事務局) すべての項目ではなく、一つでも二つでも施策に関する意見が出れば、今後の基本計画づくりに役立つと考えた。

先ほどのごみ有料化について、前基本計画でもごみ有料化について、取り組むと記述している。ただし、今まで住民を交えて説明会などを開いているが、具体的に取り組むことは難しいと考えている。

議長) 前回のワークショップですでに意見を出したので、さらに意見を求められても、これ以上出すのは難しいだろう。

事務局) 過去の取り組みについて、検証しその結果を取りまとめ、次回の審議会に提出したいと思う。

⑤第2次一般廃棄物処理基本計画（たたき台）資料 No. 5

<主な質疑・意見>

事務局) 第2次一般廃棄物処理基本計画の内容を説明する。

委員) P19 にすでにごみに対する意識の向上、施策の周知徹底、啓発や指導の強化といった課題が示されているので、それに向かって施策を立てていけばいいと思う。

P21 では目標値と見通しでグラフが大きく離れている。目標達成のための施策を出していただきたい。有料化がどのくらいの効果が出るのか、といった資料も出してもらいたい。

事務局) 次回までに有効な施策については資料を提出したいと思う。10年前には資料では有料化について効果は2割減ぐらいあるといわれていた。リバウンド効果なども含めて資料を提出したいと思う。

委員) P14 には取り組む施策については網羅されていると思う。本日の資料No.1のP9には具体的にどれくらい減らせばいいのかが記述されている。

1人1日の総排出量の目標値は設定されているが、リサイクル率や最終処分率の目標値が設定されていない。新たな焼却炉になった場合、今まで通りのリサイクル率を維持できるのか。また最終処分量は増えるだろう。

災害廃棄物については、さらっと書いてあるが、もう少し丁寧に書いてもらいたい。先ほど個別計画を立てると説明があったが、個別計画ではどのような内容のものができるのかが不明である。災害廃棄物をどのように集めて処理すればよいのかが重要なことである。そのためには仮置場が特に重要である。また、仮設トイレについても重要で、計画の中で説明が足りないような気がする。

事務局) リサイクル率は、炭化処理と比べると下がってしまうが、焼却灰を全量セメント原料することで他市に比べると高くなると思われる。最終処分率については、徐々に落ちている。災害廃棄物処理計画については数年のうちに策定する予定である。対象としては、震災、台風、水害、火災等幅広く対応するものとする。仮置場の位置や分別方法等についても具体的な計画とする。

委員) 上越市で一般廃棄物処理基本計画の見直しを行い、災害廃棄物処理の記述がある。家屋の倒壊数から木くずや石こうボード等がどのくらい発生するか推計している。仮置場の規模を定めている。

事務局) 最近の災害の実績を反映させたいと思っている。

委員) 中間処理経費が上がっている。P23の基本理念が空欄になっているのはどういうことか。また、P35の基本理念で水辺環境というのは、この計画にはふさわしくないのではないか。

事務局) 清掃センターの老朽化で改修費が上がってきているためである。稼働後はこのような傾向はなくなるだろう。

ごみ処理編の基本理念については、以前に市民から募集をしており、その中から選定する予定である。

また、水辺環境という表現については修正する。

委員) なぜ、現在の炭化施設を修理して利用し続けないのか。

事務局) 維持管理費が近年増加している。また、炭化炉を製造しているメーカーも撤退している。交換部品がなくなっている。さらに、最近では年に数回故障でストップしており、今後その回数が増えそうである。そのような理由から建て替えを考えている。ストーカー炉は全

国でも実績が多く信頼性が高い。

委員) 仮置場は、市の施設を使う必要があると思うが、それでも処理が間に合わない場合を考慮し、事前に民間事業者と協定を締結することはあるか。

事務局) 河川敷とか現状使えそうな場所は、避難所の設置が真っ先に行われるため、仮置場の選定は慎重に行う必要がある。民間事業者の土地の利用ができるのであれば、協定を締結したいと考えている。

その他の意見

<主な質疑・意見>

委員) 高校生アンケート結果についてだが、P6 で一般家庭の結果より高校生の方がフリーマーケットを利用する率が高いようだ。そのようなことを推進する施策も必要ではないか。

事務局) アンケート分析結果を踏まえて、施策を検討する。

(5) その他

事務局) 今後の審議会の流れについて、施策部分が空欄になっているため、高校生アンケートの結果等を踏まえ検討する。次回の審議会は12月下旬から1月上旬に開催したいと考えている。

(6) 閉会

小野垣副会長あいさつ